

令和8年度 京都大学特色入試
解答又は解答例等及び出題意図

《 医学部 人間健康科学科 》

論文試験

- ・一義的な解答例等を示すことが適切でない問題については、出題意図のみを示しており、解答例等を示したとしてもあくまでも1つの解答例であり、これに限りません。
- ・「解答又は解答例等及び出題意図」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

大問 I (配点 35 点)

全体の出題意図

問題文は、現代社会におけるコミュニケーションのあり方、AI（人工知能）による情報処理の特性、そしてケアにおける「聴く」ことの固有性を論じた3つの文章から構成されている。将来、医療専門職のリーダーを目指す者に不可欠な思考力を問うことを目的としている。具体的には、人間特有の「コンテキストの理解」や、マニュアル化できない「ケア」の本質を、AIの特性と比較し対照させながら多面的な視点から考察する力を求める。複数のテキストから論点を抽出し、論理的かつ明晰な表現によって自らの見解を導き出す、医療のエキスパートとなり得る人材としての資質を問う。

大問Ⅱ（配点 25 点）

全体の出題意図

問題文および図表は、日本で生活する在留外国人の医療アクセスにおける言語・文化的障壁を題材としたものである。国際的視野を兼ね備えた将来の医療専門職のリーダーとして、英語による論理的な文章と統計資料を正確に読み解く力を問う。さらに、多面的かつバランスの良い思考力によって、医療現場における具体的な解決策を論理的に構成して表現できるような、医療専門職のエキスパートとしての資質を問うものである。

個別問題の解答

問 1 :

選択肢 A : 誤

選択肢 B : 正

選択肢 C : 正

選択肢 D : 正

選択肢 E : 誤

大問Ⅲ（配点 40 点）

全体の出題意図

問題文は、アルツハイマー病を含む認知症の医学的・行政的な定義や「生活障害」を論じた文章 1、認知症の当事者が自らの経験とアイデンティティをスピーチする英語の文章 2、および認知症ケアにおける価値観の転換を示した表 1 で構成されている。形式の異なる複数の情報を的確に統合する力と、認知症がある人々に対して尊厳を持って関わる態度とその考えを論理的に構成して表現する力を問う。さらに、日本のみならず世界各国が取り組む認知症の問題と課題を幅広くかつ関心を持って捉え、将来、医療専門職や研究者を目指す者としての素養を問う。